

## 2022年度第2回学習会を開催しました



12月9日(金)ホテルメトロポリタン秋田を本会場に、大館市、能代市、由利本荘市、横手市、湯沢市の全6会場をオンラインでつなぎ、組合員・役職員68名の参加で開催しました。

一般社団法人エンカウト代表理事の佐藤秀一氏を講師に迎え、「高校生の環境をめぐる諸問題～不登校とヤングケアラーの現状について～」と題して講演いただきました。近年増加傾向にある不登校との深い関連性や、スマホの普及と人間関係の希薄化により問題が多様化している現状など、詳しく解説されました。

生協の宅配事業や買い物中の様子からもヤングケアラーの存在に気付ける可能性があるというアドバイスをいただき、日常のくらしの中で意識していくことが、生協が担える役割につながることも学びました。



開会挨拶  
三浦貴裕会長理事



講師 エンカウト  
佐藤秀一代表理事



オンライン会場からの  
質問の様子



本会場の様子

### ～参加された方のご感想～

- ①具体的な事例を聞き、秋田県のヤングケアラーの実情を知ることができた。
- ②直接かかわることはできなくても、ヤングケアラーについて知ることが第一歩だと思う。
- ③スマホという便利なものが人間関係を希薄にしており、これからの社会や若者がどうなっていくのか心配だ。良い方向へ向かうように見守ってきたい。
- ④生協の組合員として地域での目配りに気をつけていくことなど、考えるきっかけになった。
- ⑤コロナ禍においてハイブリッド形式の開催は、自宅近くの会場で参加しやすかった。

### こくみん共済coop 秋田推進本部が 秋田県保育協議会へ なわとび・長なわを 寄贈しました



こくみん共済 coop は、共済事業を営む保障の生協として共済事業で得られた成果の一部を広く社会活動に還元する立場から、子どもたちの成長を見守る「こどもの成長応援プロジェクト」という運動を行っています。「なわとびを使って子どもたちがのびのびと体を動かすことで、心も体もすこやかに成長し、たすけあいの気持ちを未来につないでいけるように。」とのコンセプトに基づき2020年1月から取り組まれており、これまでに全国で80,408本のなわとび・長なわを寄贈されています。

12月8日(木)、秋田県内の協力団体のご協力のもと共済事業で得られた成果として、秋田県保育協議会になわとび1,260本、長なわ140本を寄贈しました。

秋田県保育協議会の会員施設(228カ所)で今後活用されていきます。



こくみん共済coop 羽澤齊志本部長(左)と  
秋田県保育協議会 大友潤一会長(右)